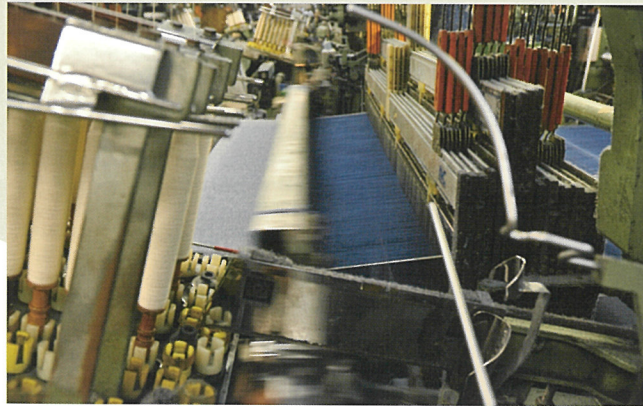


いばら 渋沢栄一ゆかりの地「井原」

渋沢栄一は、一橋家の家臣となり、農兵を集めるため領地であった備中国の西江原村(現岡山県井原市)を訪れました。興譲館の館長で儒学者の阪谷朗廬と語り合い、親交を深め、農兵募集は大成をおさめ、慶喜に認められます。井原は栄一にとって世に出るきっかけの地でした。

井原市の紹介



デニム工場

井原市は、岡山県の西南部に位置し、温和な気候に恵まれ、里山や田園など、美しい自然に囲まれた暮らしやすいまちです。古くから繊維産業が盛んで、デニム生地工場、ジーンズの縫製や加工工場が集まる一大産地であり、国産デニム発祥の地と言われています。市内の南部を近世山陽道が通り、交通の要衝として文化交流が盛んに行われ、那須与一や北条早雲など歴史的に名高い武将や画聖・雪舟のゆかりの地として、多くの史跡があるなど、文化に親しむことができる環境が身近にあります。

Access アクセス



岡山県井原市
Okayama Ibaraki City

岡山県西南部に位置し
アクセスしやすい地域です。



車で 井原市へ
倉敷から約40分
福山から約40分



電車で 井原線 井原駅へ
岡山から約60分
倉敷から約50分
福山から約30分

〈山陽自動車道 笠岡IC下車〉
岡山から約60分
広島から約110分
大阪から約3時間

笠岡から約5時間
名古屋から約5時間
東京から約9時間

〈JR山陽新幹線 JR東海道新幹線で〉
広島から約90分
大阪から約100分
東京から約4時間半

ゆかりの地紹介

朗廬阪谷先生垂帷跡の碑 (桜溪漢学塾公園)

桜溪塾とは、嘉永4年(1851)に朗廬が築瀬村の桜谷(現芳井町築瀬)に開いた漢学塾で、この2年後、嘉永6年(1853)に朗廬は一橋領代官から興譲館の初代館長として招かれました。大正2年(1913)桜溪遺跡保存会によって建立された顕彰碑の題字を、栄一が揮毫しています。



興譲館

嘉永6年(1853)に地域の子どもを教育するために一橋領が建てた郷校。校門に掲げられた「興譲館」の扁額は、栄一が明治45年(1912)に揮毫したものです。また、栄一が当地を訪れ、朗廬と面会したとされる講堂が当時のまま残っています。



興譲館講堂
(開校当時のもの。後に現在地へ移築)



興譲館校門
(中央に掲げられた扁額が渋沢栄一揮毫のもの)

井原市
特別展開催の
おしらせ

文化財センター特別展

「渋沢栄一と井原」～栄達の道は井原から～

会場 井原市文化財センター「古代まほろば館」 会期 令和3年7月1日(木)～令和4年1月30日(日)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により会期が変更になる場合があります。



大河ドラマ「青天を衝け」渋沢栄一ゆかりの地PR活動実行委員会事務局

観光について
観光交流課
TEL:0866-62-8850

渋沢栄一について
文化課 TEL:0866-62-9541
文化財センター TEL:0866-63-3144

「井原市へお越しになるみなさま」には、マスクの着用や手指の消毒、体調管理等の自己防衛に努めていただきますようお願いいたします。

観光協会



PR活動



特設サイト



NHK
あなたの声と受信料で公共放送

大河ドラマ

青天を衝け

主演 吉沢亮(渋沢栄一役)

作 大森美香 音楽 佐藤直紀 題字 杉本博司

G 日曜午後8時 BSP BS4K 日曜午後6時

仁なる者に 敵は無し

攘夷の志士を目指すも幕臣となり、パリ万国博覧会へ行くが、大政奉還で帰国 波乱万丈の人生の行く末は…

天保11年(1840)、武蔵国・血洗島村。藍玉づくりと養蚕を営む百姓の家に生まれた渋沢栄一(吉沢亮)。おしゃべりで物おじしないやんちゃ坊主は、父・市郎右衛門(小林薫)の背中に学び、商売のおもしろさに目覚めていく。

ある日、血洗島村を治めている岡部藩の代官(酒向芳)に刃向かい理不尽に罵倒された栄一。官尊民卑がはびこる身分制度に怒りを覚え、いとこの尾高惇忠(田辺誠一)や渋沢喜作(高良健吾)と共に、尊王攘夷に傾倒していく。

安政5年(1858)、思いを寄せていたとこの尾高千代(橋本愛)と結婚した栄一。子も産まれるが攘夷の熱が増し、江戸で尊王攘夷の仲間を集め、横浜の外国人居留地を焼き討ちする計画を企てる。ところが、京の情勢に通じたいとこの尾高長七郎(満島真之介)の猛反対にあい、断念。逆に幕府に追われる立場となり、喜作と共に血洗島村を出て京へ逃げる。逃げた先で一橋慶喜(草薙剛)の側近・平岡円四郎(堤真一)と出会い、「一橋の家来にならないか」と

誘われる。幕府に捕らわれて死ぬか、一橋の家臣となるかの選択に、「生き延びればいつか志を貫ける」と一橋で働くことを決意する。

一橋家で働く栄一は持ち前の商才で財政改革に手腕を発揮し、慶喜の信頼を得る。ところが、慶喜が第15代将軍となったことで、倒幕を目指すどころか幕臣になってしまった栄一。そんな中、パリ万国博覧会の随員に選ばれ、慶喜の弟・徳川昭武(板垣李光人)と共にフランスへ行くというまたとない転機が訪れる。産業発展

目覚ましいフランスに渡った栄一は、「株式会社」と「バンク」の仕組みを知り、さらに官と民が平等である社会に大きな衝撃を受ける。「攘夷なんてとんでもない。民間が力を発揮する西洋の国づくりを日本も吸収すべきだ!」と考える。そんな折、日本から大政奉還の知らせが届き、無念の帰国へ……。

一橋家

一橋家当主のちの将軍
徳川慶喜
草薙 剛

慶喜の正室
美賀君
川栄李奈

栄一の従兄
渋沢喜作
(成一郎)
高良健吾

慶喜の側近
平岡円四郎
堤 真一

円四郎の妻
平岡やす
木村佳乃

慶喜の義祖母
徳信院
美村里江

一橋家家臣
猪飼勝三郎
遠山俊也

一橋家家臣
川村恵十郎
波岡一喜

慶喜の側近
黒川嘉兵衛
みのすけ

慶喜の側近
原市之進
尾上寛之

主人公
渋沢栄一
とくたゆう
(篤太夫)
吉沢 亮

夫婦関係

水戸藩

慶喜の母
貞芳院
原 日出子

慶喜の兄
徳川慶篤
中島 歩

慶喜の弟
徳川昭武
(松平昭徳)
板垣李光人

元家老
武田耕雲斎
津田寛治

藤田東湖の息子
藤田小四郎
藤原季節

江戸幕府

徳川家

第14代将軍
徳川家茂
磯村勇斗

家茂の正室
和宮
深川麻衣

家定の正室
天璋院
上白石萌音

幕臣

元外国奉行
川路聖謨
平田 満

新選組
副長
土方歳三
町田啓太

薩摩藩

国父
島津久光
池田成志

薩摩藩士
西郷吉之助
(隆盛)
博多華丸

薩摩藩士
大久保一蔵
(利通)
石丸幹二

薩摩藩士
五代才助
(友厚)
ディーン・フジオカ

朝廷

第121代天皇
孝明天皇
尾上右近

公家
岩倉具視
山内圭哉

公家
中川宮
奥田洋平

公家
三条実美
金井勇太

諸藩

前福井藩主
松平春嶽
要 潤

前宇和島藩主
伊達宗城
菅原大吉

前土佐藩主
山内容堂
水上竜士

血洗島

渋沢家・中の家

栄一の父
渋沢市郎右衛門
小林 薫

栄一の母
渋沢糸い
和久井映見

栄一の妻
渋沢千代
橋本 愛

栄一の妹
渋沢てい
藤野涼子

渋沢家・新屋敷

喜作の妻
渋沢よし
成海璃子

栄一の従兄
尾高惇忠
田辺誠一

栄一の従兄
尾高長七郎
満島真之介

栄一の従弟
尾高平九郎
岡田健史

大河ドラマ 若くも衝け

主演 吉沢亮(渋沢栄一役) 作 大森美香 音楽 佐藤直紀 題字 杉本博司

G 日曜午後8時 BSP BS4K 日曜午後6時

公式HP <https://nhk.jp/seiten>
公式Twitter @nhk_seiten
公式Instagram @nhk_seiten

インタビュー

渋沢栄一／吉沢亮

栄一さんはものすごくチャーミングで裏表のない人。誰に対してもとても頑固なところもあるけれど、自分が間違えていたらすぐに考えを変えられる柔軟さがあり、そこがとても魅力的だと思います。横浜外国人居留地の焼き討ち計画を長七郎に止められ断念したり、尊王攘夷を目指していたのに、幕府の元で働く決断をする。その真逆の判断が、下手したら死んでいたかもしれない人生をどんどん変えていく。小さいころから家族に教えてもらった大切なことは変わらず心に持ち、「生き抜いて世の役に立つ」ということにこだわる栄一さん。この先もさまざまな決断の瞬間を大切に演じながら、栄一さんのエネルギッシュで波乱万丈な人生を楽しみたいと思います。